

平成 29 年度中小企業診断士 第 2 次筆記試験 全体統括

TAC 中小企業診断士講座
専任講師 三好 隆宏

<全体講評>

今年度の 2 次筆記試験は、ビックリするほどではないですが、各事例の出題形式や内容がこれまでのものとは違っています。「事例Ⅰ、Ⅱはまずまずの対応ができたが、事例Ⅲ、Ⅳがうまく対応できなかった」という受験者が多かったのではないかと思います。結果的に、多くの受験者が、終了後も「すっきりしない」「もやもやする」印象を持っていると思います。この点は例年通りです。結果的に約 2 割が合格するということを前提に考えると、「大事故を連発しなければ合格する」という点も例年通りです。

それぞれの事例について、簡単に特徴を整理してみます。

事例Ⅰは、オーソドックスな 5 問構成でした。しかし、第 4 問と第 5 問の要求がこれまでにない要求でしたので、要求に合わない解答構成・内容になってしまった受験者が少なくないのではないかと思います。具体的には、第 4 問は、「(全国市場に拡大することを)進めていく上で障害となるリスクの可能性」についての「助言」を要求しています。「リスク」を指摘するだけでは、「助言」にならないのでは・・・と解釈してしまうと、どうしても「対応策」を含めた構成になってしまう設定です。第 5 問は「組織的課題」について、「どのように分析するか」を要求しています。「組織的課題は何か。その具体的解決策について」ではないですし、「助言せよ」でもありません。つまり「分析してその結果を示すだけ」という設定です。制限字数が「150 字以内」と通常よりも 50 字多い設定になっていますので、「要件」と「現状」を示し、そのギャップの分析結果として「課題」を解答するという構成が期待されている可能性が高いです。

事例Ⅱは、ここ数年とは「要求」がかなり違っています。「マーケティング戦略」「製品戦略」「プロモーション戦略」「コミュニケーション戦略」といった表現(要求)がひとつもありません。第 1 問以外すべて「施策」というざっくりとした要求です。一方で「地域の中小建設業と連携」「シルバー世代」と連携相手やターゲット層を問題文で明示するなど、ターゲットやニーズの対応付けで迷うことは起きにくい点で、それほど対応には困らなかった受験者が少なくないと思われます。ただし、第 2 問～第 4 問はいずれも 120 字の制限字数であり、具体的な解答内容レベルではかなりばらつきが大きくなる設定になっていますので、予想よりも得点が低くなる可能性もあります。

事例Ⅲは、問題の構成がここ数年と大きく違っていました。第 1 問から第 4 問すべてが新たに行う「CNC 木工加工機の生産販売」が起点となっています。比較的得点しやすい第 3 問で確実に得点した上で、第 1 問と第 2 問の生産管理と生産業務の切り分けを誤らない対応ができたかどうかポイントになります。第 4 問は「製品やサービス」についての「方策」が要求で、要求を外しやすい設定になっているため難易度が高いです。

事例Ⅳは、ここ2年対応しやすい問題構成でしたが、今年は、かなり難しい構成になっています。出題者に難易度を上げる意図があったのかどうかは不明ですが、混乱のために力を得点に結びつけることができなかつた受験者が少なくないと思われます。具体的には、相対的に対応しやすい第2問の配点が少ない上に、記述のみの第4問のウエイトが高いこと、第3問がこれまでにない形式であったことです。結果的に十分に対応できない答案が多くなると考えられますので、記述部分の採点基準を甘くする、空欄の部分点の調整などを行うと考えられますので、予想している得点より高くなる可能性は十分にあります。